

福岡県 命の教育推進資料

いのち の かたち

授業づくり例

令和2年12月

福岡県教育委員会

編集にあたって

厚生労働省「令和元年版自殺対策白書」によると、我が国の自殺者数は近年全体として減少しているものの、依然として年間2万人を超えており、未だ深刻な状況が続いております。

中でも、若年層の自殺についてみると、日本における10～39歳の死因の1位は自殺となっており、国際的にも、15～34歳の死因順位の1位が自殺となっているのはG7（フランス、アメリカ、イギリス、ドイツ、日本、イタリア、カナダ）の中でも日本のみです。

また、厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（令和2年8月）によると、今年8月の小学生から高校生までの自殺者数は、全国で59人と前年の28人から倍増し、自ら命を絶つ児童生徒が増えている状況です。

本年の自殺者数増加の背景として、いのちを支える自殺対策推進センターの「コロナ禍における自殺の動向に関する分析（緊急レポート）」（令和2年10月21日）においては、「若手有名俳優の自殺報道が大きく影響している可能性が高い」、「コロナ禍で多くの児童生徒が様々な問題を抱え込んでいる可能性がある」とみられるなどと指摘されています。

このような中、学校においては、すべての児童生徒が自らのかけがえのない生命を大切にするとともに、他の存在を尊び、夢や希望を抱き共に生きていくことができる力と心を育むことが大切です。

本資料は、福岡県命の教育推進資料「いのちのかたち（活用事例集）」（平成21年4月）に、発問や板書、学習プリント、学習指導のPointを掲載し、発達段階に応じた4つの授業づくり例を示しながら再構成しました。

「生命」は身近にあるようで、その存在を確かめることは難しいものです。「生きること」は当たり前すぎて、その素晴らしさを感じることもまた、難しいものです。

だからこそ、道徳科の授業を通して、今一度、先生方と児童生徒と一緒に考え、自他の生命の存在を確かめ、その素晴らしさを感じながら生命の尊さについての自覚を深めていくことが大切です。

「心のノート（中学校版）」（文部科学省）には、次のような言葉が掲載されています。

『生の喜びは大きいけれど、自覚ある生の喜びはさらに大きい。』

本資料を手にとられた先生方と児童生徒と一緒に考える授業によって、自覚ある生の喜びがさらに大きくなることを心から願っています。

令和2年12月

目 次

「D 生命の尊さ」の内容項目について・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

授業づくり例①【中学校】

道徳科学習指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

読み物教材「へその緒」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

授業づくり例②【小学校（高学年）】

道徳科学習指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

読み物教材「生きていることが『幸せ』」・・・・・・・・ 10

授業づくり例③【小学校（中学年）】

道徳科学習指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

読み物教材「ありがとうのたん生日」・・・・・・・・・・・・ 14

授業づくり例④【小学校（低学年）】

道徳科学習指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

読み物教材「インコが しんだ」・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

「D 生命の尊さ」の内容項目について

(小学校及び中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編より一部抜粋)

生命を尊ぶことは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の現れと言える。ここで言う生命は、連続性や有限性を有する生物的・身体的生命に限ることではなく、その関係性や精神性における社会的・文化的生命、さらには人間の力を超えた畏敬されるべき生命として捉えている。そうした生命のもつ侵し難い尊さが認識されることにより、生命はかけがえのない大切なものであって、決して軽々しく扱われてはならないとする態度が育まれるのである。

【中学校】

指導に当たっては、まず、人間の生命のみならず身近な動植物をはじめ生きとし生けるものの生命の尊さに気付かせ、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもつよう指導することが重要な課題となる。例えば、それぞれの生命体が唯一無二の存在であること、しかもそれらは全て生きているということにおいて共通であるということ、自分が今ここにいることの不思議（偶然性）、生命にいつか終わりがあること、その消滅は不可逆的で取り返しがつかないこと（有限性）、生命はずっとつながっているとともに関わり合っていること（連続性）、生命体の組織や生命維持の仕組みの不思議などを手掛かりに改めて考えさせることができる。そうした学習を通して、自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、他の生命を尊重する態度を身に付けさせることが大切である。

【小学校高学年】

指導に当たっては、家族や仲間とのつながりの中で共に生きることのすばらしさ、生命の誕生から死に至るまでの過程、人間の誕生の喜びや死の重さ、限りある生命を懸命に生きることの尊さ、生きることの意義を追い求める高尚さ、生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さなど、様々な側面から生命のかけがえのなさを自覚し生命を尊重する心情や態度を育むことができるようにすることが求められる。

【小学校中学年】

指導に当たっては、生命は唯一無二であることや、自分一人のものではなく多くの人々の支えによって守り、育まれている尊いものであることについて考えたり、与えられた生命を一生懸命に生きることのすばらしさについて考えたりすることが大切である。あわせて、自分と同様に生命あるもの全てを尊いものとして大切にしようとする心情や態度を育てることが求められる。

【小学校低学年】

指導に当たっては、当たり前なことで見過ごしがちな「生きている証（あかし）」を実感させたい。また、自分の誕生を心待ちにしていた家族の思いや、自分の生命に対して愛情をもって育ててきた家族の思いに気付くなど、自分の生命そのもののかけがえのなさに気付けるようにすることが大切である。そのことを喜び、すばらしいことと感じることによって、生命の大切さを自覚できるようにすることが求められる。





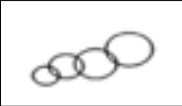
道徳科学習指導案（対象：中学生）

（生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。）

- 1 主題名 つながる生命を輝かせる（D 生命の尊さ） 教材名「へその緒」
 2 ねらい 自分に与えられた生命は、つながりの中で存在し、精一杯輝かせることが大切であることに気付き、生命を輝かせながら生活しようとする心情を育てる。

Point1

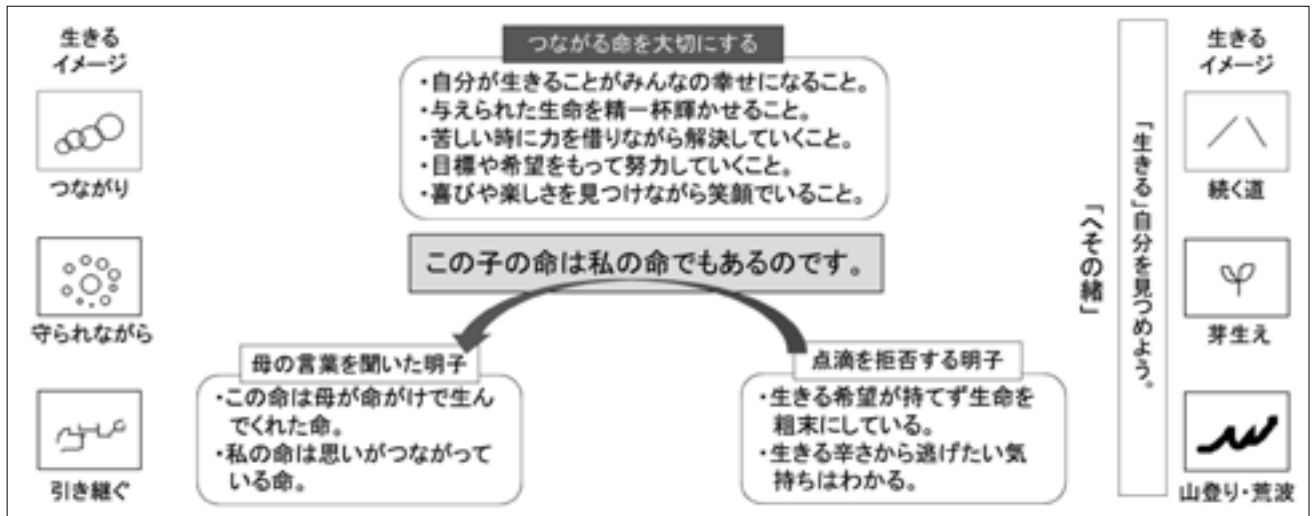
3 学習過程

生徒の学習活動・予想される発言と教師の発問	教師の支援（目的+方法）
<p>1 本時学習の方向性をつかむ。</p> <p> 「生きる」というのはどんなイメージですか。 画用紙に描きましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  続く道 </div> <div style="text-align: center;">  芽生え </div> <div style="text-align: center;">  山登り・荒波 </div> </div> <p> 「生きる」イメージは様々ですが、人間として生きる上でどんなイメージをもつことが大切なのでしょう。</p>	<p>○「生きる」ことについての問いをもたせるために、表現したイメージを分類してイメージの違いを整理しながら板書し、問題意識をもたせる発問をする。</p>
<p>【問い】（例）生きる自分とはどんな自分なのだろう。（例）生きるってどういうこと。</p>	
<p>2 教材をもとに生きる意味について明らかにする。</p> <p>(1) 生きる希望がもてない弱さを明らかにする。</p> <p> 点滴を拒否する明子を、あなたはどのように思いますか。 （誰もがもつ人間の弱さを俯瞰的に考えさせる発問）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きる希望が持てず生命を粗末にしている。 ・生きる辛さから逃げたい気持ちはわかる。 <p>(2) つながる生命の大切さを明らかにする。</p> <p> 母親の言葉を聞いた明子は、自分の生命をどのように考えたでしょう。【中心発問】→書く活動→発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この生命は母が命がけで生んでくれた命。 ・私の命は思いが繋がっている命。 <p>(3) 生きることの尊さを明らかにする。</p> <p> つながる命を大切にすると、人間としてどう生きることなのでしょう。【深める補助発問】→対話活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が生きることがみんなの幸せになること。 ・与えられた生命を精一杯輝かせること。 	<p>○現実の辛さから生命を粗末にしてしまう人間の弱さを明らかにするために、第三者の視点から考える発問をする。</p> <p>○生命の尊さを明らかにするために、「この子の命は私の命でもあるのです」を板書し、言葉の意味を問う発問をする。</p> <p>○生きることの尊さを明らかにするために、人間としてどう生きることが生命を大切にしていけることとなるかを発問する。</p>
<p>【自分を振り返る視点】（例）生命のつながりの中で精一杯生きている自分。 （例）守られながら生かされている自分。（例）生きて生命を未来に引き継ぐ自分。</p>	
<p>3 これからの生き方について考える。</p> <p> 改めて「生きる」というイメージを画用紙に描き、自分を振り返ってみましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  つながり </div> <div style="text-align: center;">  守られながら </div> <div style="text-align: center;">  引き継ぐ </div> </div> <p>・自分の生命も親とつながり守られている生命だから、楽しく頑張っている姿を大切にしていきたい。</p>	<p>○自分が考えた「生きる」イメージを確かにし、これからの生き方につながるために、板書の導入でのイメージを示し、終末でのイメージと比較しながら学びを整理する。</p>

Point2

Point3

- 4 準備 画用紙、クレヨン
- 5 板書



6 学習プリント

7 学習指導の Point

- Point1**
 (1) 気付かせたいこと（ねらい）を明確にする。
 気付かせたいことは、自分に与えられた生命は、①つながりの中で存在し、②精一杯輝かせることが大切であるということです。①つながりの中で存在していることは中心発問から、②精一杯輝かせることの大切さは深める補助発問から生徒が具体的に気付いていけるようにします。
- Point2**
 (2) 最も考えさせたいことについて対話する活動を重視し時間を確保する。
 最も考えさせたいことは、「つながる命を大切にすると、人間としてどう生きることなのか。」です。【中心発問】→書く活動→発表→【深める補助発問】→対話活動の流れを大切にします。
- Point3**
 (3) 見えない「生命（生きる）」のイメージを表現し言語化できるように支援する。
 「生命（生きる）」は、観念的で目に見えるものではありません。そこで、どのような「生命観（生きるイメージ）」を持っているのか、学んだのかを表現し言語化する活動を支援します。

へ その 緒

明子は、その日の放課後、図書室から帰ってきて教室に入ろうとした時、たけしと陽子それに牧子と良子と思われる四人の話し声を聞いた。四人は昼休みに練習した合唱コンクールについての話をしているようだった。

「それにしても、明子、まったく声出してないと思わない。」

「そうだよ、いつも口開けて歌っているぶりだけしてさ。」

「あいつ、いなくてもいいよな。」

明子は頭に血が上ってくるのを感じた。そして、我慢できず、いきなりガラスと扉を開けて、教室へ入った。

「あ！明子。」

驚いたような、それでいて何もなかったような4人の顔を見た瞬間、明子は、怒りが悲しみに変わるのを感じた。明子は次の言葉を聞かないように、急いで帰り支度をし、逃げるようにして教室を出た。「あいつ、いなくてもいいよな」明子の耳には、さっきの四人の声がかたまのように繰り返された。

明子が二階の踊り場まで走ってきたその瞬間、明子はバランスを失い、のけるような格好で階段を駆け落ちて行った。

すぐ後を追いかけて来た弘美の「ギャー」という甲高い声が響いた。

明子は救急車のサイレンの音が近づいてくるのを感じていた。

「明子、しっかりして、大丈夫？」という弘美の声が耳元でした。

明子は起き上がろうとした。しかし、体は動かなかった。無理に動かそうとすると右膝に激痛が走った。そのうち明子の意識はだんだんと薄れていった。

明子は病院で目を覚ました。目の前に心配そうな母の顔があった。明子の右膝にはギプスがしてあった。膝の靭帯が損傷しているとのことだった。

母は「明子、膝だけの怪我で良かったね。」と言つて、手を握ってくれた。母の目には今にもこぼれそうな涙が瞳の中で揺れていた。

夕方には怪我のことを心配して、担任の先生やクラスの友達が見舞いに来てくれた。しかし、明子は「会いたくないから」と言つて、誰とも会わなかった。友達の弘美とも会おうとしなかった。

夜、一人になった明子は、昼休みのことを思い出していた。その日の昼休みは、合唱コンクールのための音楽室を使つてのクラス練習日だった。しかし、その練習たるやひどいできた。指揮者であり責任者であるたけしは、何回か練習した後に「こんなことでは、最優秀どころか、優秀賞にも手が届かないよ。みんなもつと気持ちをひきしめてくれなきゃ困るよ。」と、言葉を荒らげた。伴奏者の陽子もたけし以上に怒りをみんなにぶつけた。そして、その矛先を明子に向けたのだった。「明子、もつとちゃんと声出してよ。」と強い口調で責めた。明子は黙っていた。すると、みんなは明子が黙っていることをいいことに、その責任が明子一人にあるかのように次々と明子に非難を浴びせたのだった。弘美だけはかばってくれたものの、多勢に無勢で明子は責められっぱなしになった。

明子は、合わせの練習では、どうしても音がとれないことを自分で知っていたので、みんなに迷惑をかけないようにと、いつも大きく口だけを開け、精一杯の表情をつくることで一緒に取り組んでいるつもりだった。「それなのに…」思い出すたびに、くやしくてベッドの中で何度も唇をかみしめた。

明子が入院してからすでに三ヶ月が過ぎていた。階段での怪我は治っていたものの、心の傷が残っているということで、医者のおすすめもあり、入院が続いていた。

あの日以来、明子には学校へ行こうという気持ちがなくなっていた。しかもそればかりか、しだいに生きていくということにも疑問をもち始めていた。何のために生きていくのだろうか考えるようになった。そう考えれば考えるほど、生きていくことの意味がわからなくなった。そして「死にたい。」という言葉が口走るようになった。それからというもの、明子は「なぜ死なせてくれないの。私なんていなくてたつていい人間よ。いや、むしろいない方がいいの。どうしていつまでも点滴などというよけいなことをするのよ。誰も頼みもしないのに。」と、母に当たり散らすようになっていた。

そんなある日の午後、弘美が何日がぶりがで見舞いに行くと、明子は点滴を拒否するといつて、ダダをこね、看護師を困らせていた。

「明子！」

知らせを聞いて急いで戻ってきた母親の大きな声が病室に響いた。

「明子、あなたを生んだのは、あなたを死なすためではないのよ。あなたが・・・。」

途切れ途切れに母は話した。

そして、持ってきた鞆の中から桐の箱を取り出した。

「明子、これを開けてみなさい。」

と言った。明子は言われるまま、その桐の箱のふたを開けた。中には小さな綿の包みが入っていた。そつとその包みを開くと、茶褐色にひかたびたものが現れた。

「明子、それはね、あなたの『へその緒』よ。」

母はそこまで言って、下を向いた。

父は母の様子を見ていたが、静かに病室を出るや、しばらくしてラジカセを持って病室に入ってきた。

「明子、このテープを聞きなさい。これは母さんが明子を産んだときのテープだ。母さんはね、はじめ、お医者さんから『赤ちゃんはあきらめてください。』と言われたんだ。そのとき、母さんは『絶対に赤ん坊を産む。』ときかなかつた。そして、『私が生きた証に、その瞬間をテープにとつておいて欲しい。』と頼んだんだ。」

明子は桐の箱を窓際の棚の上に置いて、テープを聞いた。テープは、ザザーという雑音をあげながら回った。「まさえ、まさえ」と母を元気づける、父の声が聞こえてきた。それから長い時間、母の苦しそうなうめき声と母を励まし続ける父の声が続いた。あまりの苦しそうな声に、明子は息をのんで聞き入っていた。突然「オギャー、オギャー」という大きな泣き声が聞こえてきた。明子のこの世における第一声であつた。「まさえ、よくやった！」「まさえさん、がんばったねえ。」父の声に続いて、「とつても元気な女の子よ」周りの看護師さんの声が聞こえた。

テープが止まると、父さんは静かに話し始めた。

「明子ごめん。最初、お母さんが明子を身ごもった時、一人で、『産むのをやめよう』と話し合つたんだ。お父さん、事業で失敗して、すごい借金を背負つてしまつて。母さんも、そんな中で子どもを育てる自信がなくて。それで、先生に『産むのをやめたいのですが。』と頼みにいつたんだ。しかし、先生は

『産むべきだ。』と言って、やめるのを許してはくれなかった。そればかりか、先生はお母さんに『あなたの命はもうあなただけのものではないですよ。』と、励ましてくれたんだ。それで母さんは、明子を産む決心をしたんだ。

でも産むときになって『今の体の状態から考えると、母子とも生かすことは難しい。母体を優先することで赤ちゃんはあきらめてください。』と先生から言われたんだ。母さんは『この子だけは生かしてほしい。』と先生に必死で頼んだ。そのときの言葉が今でも耳に残って離れないんだよ。」

「お母さん、何て言ったの？」

明子は思わず尋ねた。父と母は見つめ合った。そして一緒に明子を見た。父の口がゆつくりと開いた。

「この子の命は、私の命でもあるのです。」

明子は母を見た。父を見た。そしてもう一度母を見たとき、涙で母はぼやけていた。

「ごめんなさい……。」

明子は、母の手を握り返した。

この一部始終をずっとそばで見守っていた弘美の目にも涙があふれていた。緑の木々から漏れるやわらかい陽射しが、病室に射し込んでいた。

桐の箱が風に吹かれて、カタンと床に落ちた。その時、へその緒が箱からこぼれ落ちた。明子は、その『へその緒』を大事そうに拾って、抱きしめながら言った。

「ねえ、弘美、頼みたいことがあるの。明日学校に行ったらね……」






明子の顔には、生きている喜びが、確かに輝いていた。

道徳科学習指導案（対象：小学校高学年）

（生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。）

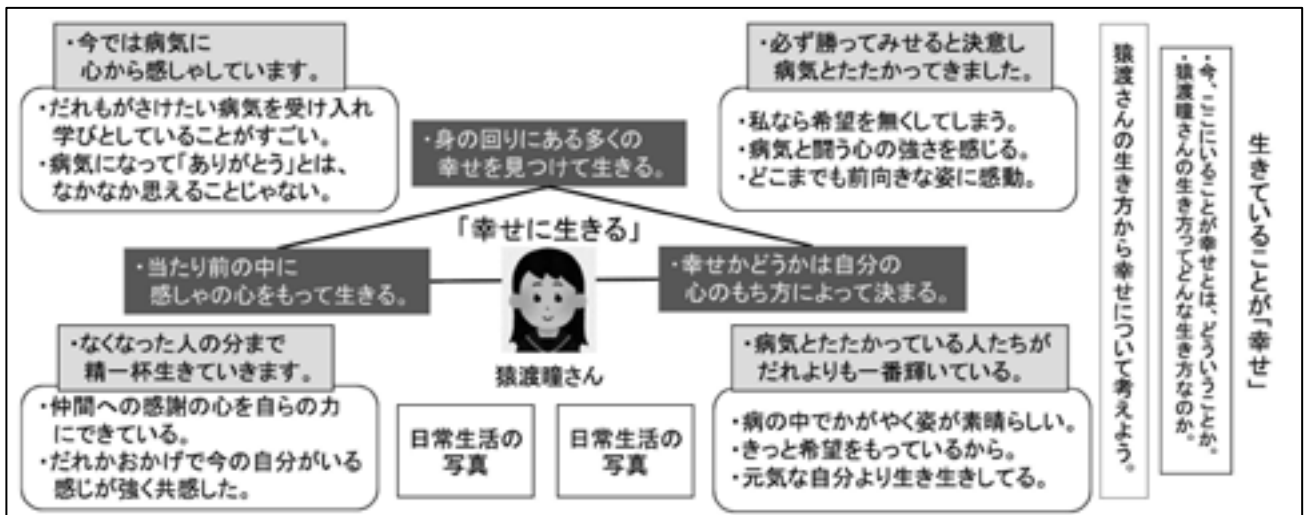
- 1 主題名 幸せに生きる（D 生命の尊さ） 教材名「生きていることが『幸せ』」
- 2 ねらい 人とのつながりの中で生きていることをありがたいと思える気持ちが幸せに生きることにつながることに気づき、家族や友だちとつながる今を大切に思う態度を育てる。

3 学習過程

児童の学習活動・予想される発言と教師の発問	教師の支援（目的+方法）
<p>1 教材を読んだ感想から本時学習の方向性をつかむ。</p>  <p>生きていることが『幸せ』の話を読んで、どんな感想や疑問をもちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、ここにいることが幸せとは、どういうことなの。 ・猿渡瞳さんの生き方ってどんな生き方なの。 <p>【問い】（例）猿渡さんの生き方から幸せについて考えよう。（例）幸せに生きるとは。</p>	<p>○本時学習の方向性をつかむために、教材「生きていることが『幸せ』」を読み、感想や疑問を板書する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; background-color: #f0f0f0;">Point2</div>
<p>2 猿渡さんの作文をもとに幸せについて明らかにする。</p> <p>（1）猿渡さんの作文で感動したところを見つける。</p>  <p>猿渡さんの作文の中で、最も心を動かされたのはどこですか。作文に1つだけ線を引きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必ず勝ってみせると決意し…病気と闘ってきました。 ・病気と闘っている人たちが誰よりも一番輝いている。 ・亡くなった人の分まで精一杯生きていきます。 <p>（2）感動した理由を明らかにする。</p>  <p>あなたは、猿渡さんの作文の中で、なぜ、そこに心を動かされたのですか。（理由を比べて気付くことは）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私なら希望を無くしてしまうかもしれません。生きるために病気と闘う心の強さや前向きさを感じたから。 ・病気の中でも生きていること、家族といること、仲間といることへの感謝の心をもっているから。 <p>（3）猿渡さんの生き方から「幸せ」を明らかにする。</p>  <p>猿渡さんが私たちに伝えようとしている「幸せに生きる」とは、どういうことなのでしょう。できるだけ短い言葉で書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当たり前の中に感謝の心をもって生きる。 ・身の回りにある多くの幸せを見つけて生きる。 ・幸せかどうかは自分の心のもち方によって決まる。 	<p>○感動したことを明確にするために、猿渡さんの作文を配付し、色鉛筆で最も感動した部分に1つだけ線を引くように指示する。</p> <p>○感動した理由を明らかにするために、感動の理由を詳しく書ける学習ノートを準備し、理由を比べて考えられるように補助発問をする。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; background-color: #f0f0f0;">Point1</div> <p>○「幸せ」について明らかにするために、できるだけ簡潔な言葉でまとめて学習プリントに書くよう指示をする。</p>
<p>3 自分を振り返り、これからの生き方について考える。</p>  <p>瞳さんの生き方や考え方をもとに、今の自分の生活にある幸せを振り返ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強が面倒くさいと思っていたけれど、友達と一緒に勉強できること自体が幸せなことなんだ。 ・毎日の給食を当たり前のように食べていたけれど、食べられることに感謝できることが幸せなんだ。 	<p>○自分の今の生活の中の当たり前を探し、今に幸せを感じる生き方につながるために、学校生活の写真を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; background-color: #f0f0f0;">Point3</div>

4 準備 猿渡瞳さんの作文

5 板書



6 学習プリント

道徳学習プリント

年 組 名前 ()

「生きていることが「幸せ」」

感動したところ

感動した理由

① 感動したところを書きます。
② 感動した理由を書きます。
③ 理由を比べながら話し合います。

今の自分の生活の中にある「幸せ」をふり返ろう。

7 学習指導の Point

(1) 気付かせたいこと（ねらい）を明確にし、教材の活用を工夫します。

Point1

気付かせたいことは、人とつながりの中で生きていることをありがたいと思える気持ちが幸せに生きることにつながることです。そのために、猿渡さんの作文教材を、①「感動部分を見つける」②「感動した理由を比較しながら話し合う」、③「簡潔な言葉でまとめる」という、感動的な教材の活用をしながら「幸せ」について児童が具体的に気付いていけるようにします。

(2) 教材に対する感想や疑問から、猿渡さんの生き方に対する関心をもたせます。

Point2

猿渡さんの生き方に関心をもたせるために、導入では私の作文を読み、感想や疑問を出させて整理します。その後、猿渡さんの人物紹介をして作文を配付します。

(3) 日常生活における幸せに生きる姿を想起できるように支援する。

Point3

学んだことを自分の日常生活と結び付けて考えることが大切です。そこで、児童が頑張っていること、幸せや喜びを感じて取り組んでいることを想起できるように写真などの提示をします。

生きていることが「幸せ」

「どんなに困難なかべにぶつかって悩んだり、苦しんだりしたとしても、命さえあれば、必ず前に進んでいける。」

この言葉は、私の心にとても大きくひびき、そして勇気づけられました。

先週、道徳の学習で、猿渡 瞳さんの「命を見つめて」という作文を読みました。一番ショックを受けたこと、それは、私たちと同じくらいの年れいの人が、生きるため、ただ生きるために、一生けんめいたたかっているという事実です。そして、今生きていることに幸せを感じ、毎日を大切にしているということです。

それに比べて、今の私はどうでしょう。この前、お姉ちゃんと大げんかになり、本気ではないにしても、「死にたい。」なんて考えてしまいました。友達とけんかしたときも、「あんな友達なんて、いなければいいのに。」と思い、今自分がつらいのを人のせいにしていました。瞳さんたちから見たら、本当に小さなかべでしかない出来事に、おろおろしていました。

そんな私に、瞳さんは大切なことをいくつも教えてくれました。いつも友達といっしょにいたり、楽しくわいわいしたりしていることが「幸せ」ではなく、友だちがいることが「幸せ」であること。家の中で自分の思う通りになることが「幸せ」ではなく、家族がいることが「幸せ」であること。そして、自分が今、ここにいることが「幸せ」であること。

日曜日、家族で食事に出かけました。以前の私なら「どこへ行くのか」だけが気になっていたのですが、この日はそんなことより、「こういうのって幸せなのかな。」という気持ちになりました。

私には、瞳さんのような強い生き方はできないかもしれないけれど、私の周りの家族や友達への感しやの気持ち、生きていることへの感しやの気持ちを忘れずに生きていきたいです。

「命を見つめて」 猿渡 瞳

みなさんは、みなさんは本当の幸せって何だと思いますか。実は、幸せが私たちの一番身近にあることを病気になったおかげで知ることができました。それは、地位でも、名でも、お金でもなく「今、生きている」ということなんです。

私は、小学六年生の時に骨肉しゅという骨のガンが発見され、約一年半に及ぶとう病生活を送りました。この時、医者に、「病気に負ければ命がない。」と言われ、「右足太ももから切断しなければならぬ。」ときびしいせんこくを受けました。初めは、とてもショックでしたが、必ず勝ってみせると決意し希望だけをむねに真っ向から病気とたたかってきました。その結果、病気に打ち勝ち右足も手じゅつはしましたが、残すことができたのです。

しかし、このとう病生活の間に、いつしよに病気とたたかってきた十五人の大切な仲間が、次から次に亡くなっていきました。小さな赤ちゃんからおじいちゃんやおばあちゃんまで、年れいや病気も様々です。きびしい治りようとあらゆるけんさの連続で心も体もボロボロになりながら、私達は生き続けるために必死にたたかってきました。しかし、あまりにも現実ばかりはきびしく、みんないつしゅんにしてなくなっていかれ生き続けることがこれほどに困難で、これほどいだいなものかということ思い知らされました。みんないつの日か、元気になっている自分を思いえがきながら、どんなに苦しくても目標に向かって明るく元気にがんばっていました。それなのに生き続けることができなくて、どれほどくやしかったことでしょう。私のはつきり感じたのは、「病気とたたかっている人たちがだれよりも一番ががやっていた」ということです。そして健康な体で学校に通ったり、家族や友達とあたり前の様に毎日を過ごせたりということが、どれほど幸せなことかということです。例えば、どんなに困難なかべにぶつかってなやんだり、苦しんだりしたとしても、命さえあれば必ず前に進んでいけるんです。生きてくても生きられなかつたたくさんの方々が命をかけて教えてくれた大切なメッセージを、世界の人々に伝えてゆくことが私の使命だと思っています。



今の世の中、人と人が殺し合う戦争や、平気で人の命をうばう事件、そしていじめを苦にした自殺等、悲しいニュースを見る度にいかりの気持ちでいっぱいになります。一体どれだけの人が、それらのニュースに対してしんげんに向き合っているのでしょうか。私の好きな詩人の言葉の中に『今の社会のほとんどの問題で悪に対して「自分には関係ない」と言う人が多くなっている。自分の身にふりかかからないかぎり見て見ぬふりをする。それが実は、悪をおうえんすることになる。私には関係ないというのは楽かもしれないが、一番人間をダメにさせていく。自分の人間らしさがけずられどんどん消えていつてしまう。それを自覚しないと悪を平気でゆるす無気力な人間になってしまう。』と書いてありました。本当にその通りだと思います。どんなに小さな悪に対しても、決してゆるしてはいけません。そこから悪がエスカレートしていくのです。今の現実がそれです。命を軽く考えている人達に、病気とたたかっている人達のすがたを見てもらいたいです。そしてどれだけ命がとうといかということを知ってもらいたいです。

みなさん、私達人間はいつどうなるかなんて分からないんです。だからこそ、一日一日がとても大切なんです。病気になったおかげで生きていく上で一番大切なことを知ることができました。今では、心から病気を感じやしています。私は自分の使命を果たすため、亡くなったみんなの分までせいっぱい生きていきます。みなさんも生きていることに感じやしてくいのない人生を送ってください。

Point1

- 1 主題名 守り支えられるいのち（D 生命の尊さ） 教材名「ありがとうのたん生日」
 2 ねらい 自分の生命は自分だけの生命ではなく、家族に守り支えられている大切な生命であることに気付き、家族とのつながりを感じながら生命を大切にしようとする心情を育てる。

3 学習過程

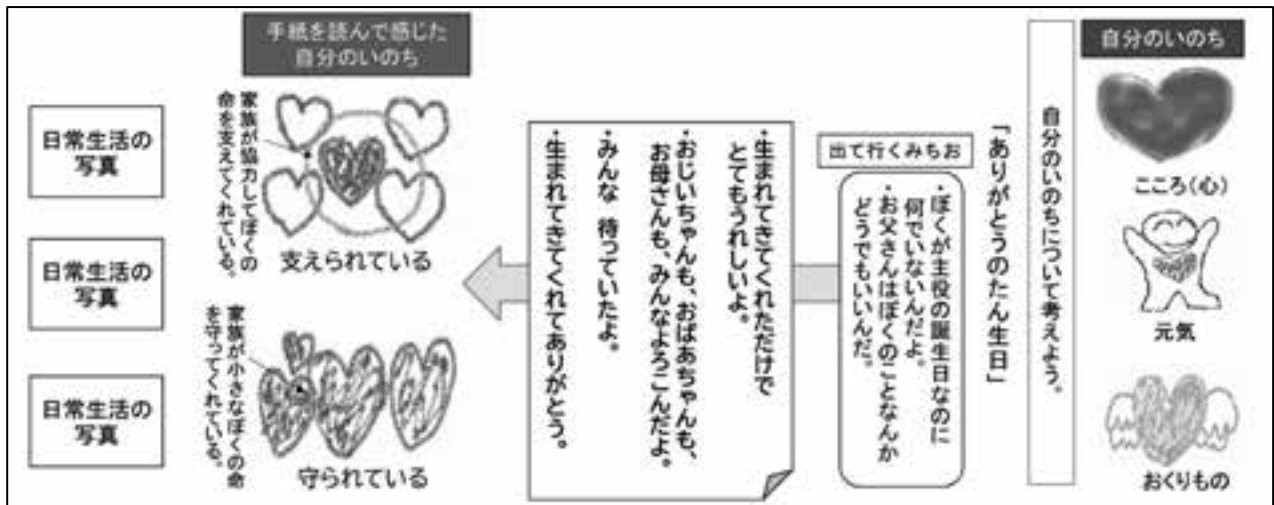
児童の学習活動・予想される発言と教師の発問	教師の支援（目的+方法）
<p>1 本時学習の方向性をつかむ。</p> <p>「自分のいのち」を学習プリントに描きましょう。</p>  <p>こころ げんき おくりもの</p> <p>「自分のいのち」のイメージはいろいろありますね。 「自分のいのち」は、本当にこんないのちなのだろうか。</p>	<p>○「自分のいのち」に関する問いをもたせるために、1つしかない自分の生命のみを表しているイメージを取り上げ、「自分のいのちは、本当にこんないのちなのだろうか」と発問する。</p>
<p>【問い】(例) 自分のいのちはどんないのちだろう。(例) 自分のいのちについて考えよう。</p>	
<p>2 教材をもとに、自分のいのちについて明らかにする。</p> <p>(1) 自分だけのいのちに関する考えを明らかにする。</p> <p>玄関の戸をガシャンと強く閉めて出て行くみちおはどんな気持ちでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくが主役の誕生日なのに、何でいないんだよ。 ・お父さんはぼくのことなんかどうでもいいんだ。 <p>(2) 家族に守り支えられている生命を明らかにする。</p> <p>お父さんからの手紙を読んだみちおは「自分のいのち」をどんないのちだと感じたのでしょうか。みちおが感じた「自分のいのち」を学習プリントに描きましょう。</p>  <p>「自分のいのち」なのに、なぜ、たくさんあるの。ここの丸や重なりはどんな感じがするかな。</p> <p>【深める補助発問→描いた児童とは別の児童に指名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のいのちは家族が守ってくれたいのちなんだ。 ・自分のいのちは家族に支えられてきたいいのちなんだ。 ・自分のいのちは家族とつながっているんだ。 	<p>○家族とのつながりを感じきれない考えを明らかにするために、誕生日に関する家族への不満が表れた行為をもとに主人公の心情を問う発問をする。</p> <p>○生命について考えを広げたり深めたりするために、イメージとして描いた「自分のいのち」と導入で描いた「自分のいのち」を比較しながら補助発問を行ったり、描いた児童と別の児童の感じ方を引き出す意図的指名をしたりする。</p>
<p>【自分を振り返る視点】 (例) 自分のいのちは大切に守られているいのち。 (例) 自分のいのちは今も支えられているいのち。</p>	
<p>3 自分を振り返り、これからの生き方について考える。</p> <p>自分のいのちが守られたり、支えられたりしていると感じることを振り返ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気の時に、お母さんがずっとそばにいてくれた。 ・地域の方が、パトロールで守ってくださっている。 ・自分だけのいのちじゃないから大切にしていきたい。 	<p>○これまでの自分を振り返りやすくするために、自分のいのちが守られたり、支えられたりしている例として児童の日記や学校での写真を提示する。</p>

Point2

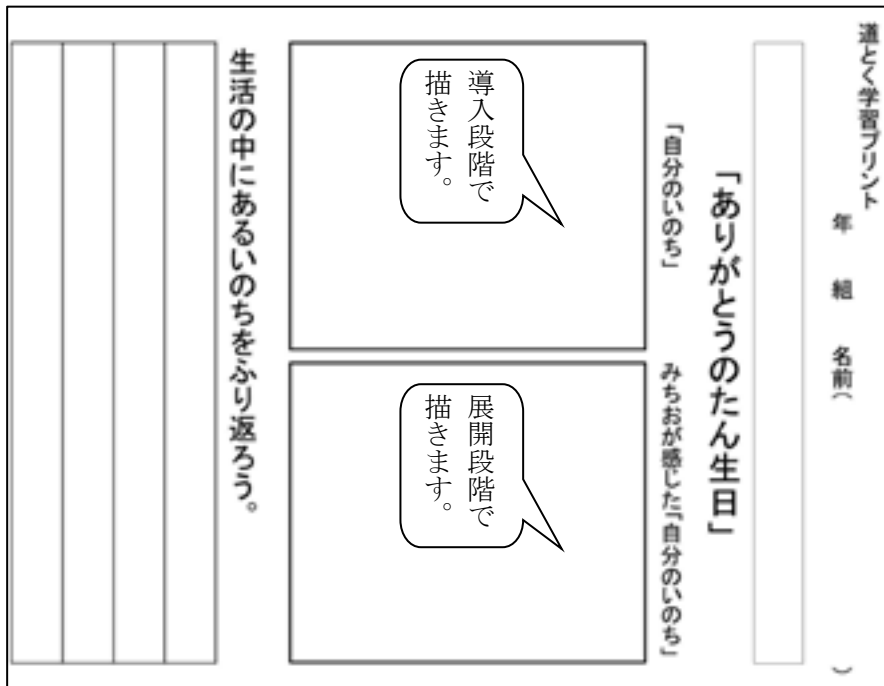
Point3

4 準備 学習プリント、クレヨン（色鉛筆）

5 板書



6 学習プリント



7 学習指導の Point

(1) 気付かせたいこと（ねらい）を明確にする。

Point1

気付かせたいことは、自分の生命は自分だけの生命ではなく、家族に守り支えられている大切な生命であることです。家族に守り支えられている大切な生命であることは、2 (2) の活動と補助発問によって児童が具体的に気付いていけるようにします。

(2) 他者の「生命」のイメージを言語化する中で「生命」のとらえ方を広げ深めていく。

Point2

「生命」の捉え方は豊かな広がりや深まりが大切です。そこで、2 (2) の活動で「自分のいのち」のイメージを描いた児童とは別の児童が説明することで新たな気づきを促します。

(3) 日常生活における「守られ支えられるいのち」を振り返りやすくする支援をする。

Point3

日常生活において「守り支えられている自分のいのち」を振り返ることは難しいことです。そこで、具体的に考えられるように振り返る前に児童の日記や学校生活の写真を提示します。

ありがとうのたん生日

今日はみちおのたん生日。それなのに、お父さんは急な仕事で帰ってこれないというのです。ゆうづからそのことでくそを曲げていたのです。

「みちお、いつてらっしゃい。」

みちおは、お母さんにくんじもしません。

「車に気をつけるんですよ。」

「うるさいなあ……。今日は、ぼくが生まれた、ぼくだけのたん生日なのに。」

「お父さんもお母さんもわかってないよ。」

みちおは、わざとげんかんの戸をガシャンと強くしめて出て行きました。

学校でも、いいことはありませんでした。算数のノートは忘れるし、いつものドッジボールでは、けがをするし……。『おめでとう。』って言うてくれたのは、親友のけんただけでした。

「つまんないなあ……。」

学校から帰っても、みちおのきげんはなおりません。こちそうを作っているお母さんの横に来て、しかめっつらで言いました。

「あーあ。よそに食べに行きたいよ。」

「お父さんが帰った日に行けばいいでしょ。」

「それに今日は、おじいちゃんとおばあちゃんが、わざわざ、来てくださったのよ。」

みちおは、ドンドンと大きな足音を立てて、そのまま二かいの自分のぐやに上がって行ってしまいました。

ふと見ると、つくえの上に手紙がおいてあります。お父さんからです。

きつと、朝の出がけにおいて行ったのでしょう。みちおはふうを切って見てみました。

みちお、九才のたん生日おめでとう。早いもので、あれから九年もたつんだねえ。みちおは、お父さんとお母さんが長い間、まって、まって、まちつづけて、やつと生まれてきた子なんだ。

なかなか赤ちゃんができなかつたので、びょういんに行ったり、神さまにおねがいに行ったり、そりやあがんばつたんだ。けつこんして六年目、お母さんのおなかの中に新しい「いのち」をさすかつたことを知った時は、そりやあもううれしくて、二人ともとび上がつてよろこんだものさ。それから毎日、お母さんのおなかとにらめつこた。

いよいよ生まれるつていう時、たいへんなことが起きてしまつたんだ。へそのおが赤ちゃんの首にまきついていて、おいしやさんが、このままじゃ「赤ちゃんのいのちもお母さんのいのちもあぶない。」つて言うんだよ。お父さんはもう、ただいのることしかできなかつた。

みちおの声を聞いたのは、八時間もの手じゆつの後だつた。

「赤ちゃんのいのちもお母さんのいのちもぶじです。男の子ですよ。」

おいしやさんの言ばに、おじいちゃんはこしをぬかすし、おばあちゃんはおいおいなき出すし・・・お父さんかい？

おいしやさんにだきついちやつたんだ。

でも、それからがたいへんだつたんだ。しばらくは、おつばいをあげられなくてね。それでもお母さんのおつばいをあげたいつて、毎日びょういんに通つたんだ。

そうして、はじめてだつこできた日、お父さんとお母さんは、声をそろえて言つたんだよ。

「うまれてきてくれて、ありがとう。」

あれから十年、今でも同じ気持ちだよ。

生まれた後も、みちおがびょう気をした時は、みんなで心ばいして、なんどもびょういんに通つたんだ・・・。

みちおが元気でいてくれることが、お父さんたちの何よりのしあわせなんだ。

今日はやくそくをまもれなくてすまなかつたな。お母さんにおねがいしてるから、ほしいものをおねだりするといひよ。

お父さんより

手紙を読み終わると、みちおは、自分が小さいころから今までのしやしんを「まいまい見ながら、「自分のいのち」についてあらためて考え始めました。

みちおは、お母さんのところへとんで行きました。そして、うれしそうな顔でこう言つたのです。

「お母さん、ありがとう。ぼくが生れた日は、ぼくだけのたん生日じゃないんだね。」






道徳科学習指導案（対象：小学校低学年）

（生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。）

- 1 主題名 心の中で生きる大切ないのち（D 生命の尊さ） 教材名「インコが しんだ」
 2 ねらい 自分の心の中で生き続ける生き物の生命の大切さに気付き、生きている証（動く、なく、温かい、柔らかい等）を感じながら生命を大切にしようとする態度を育てる。

Point1

3 学習過程

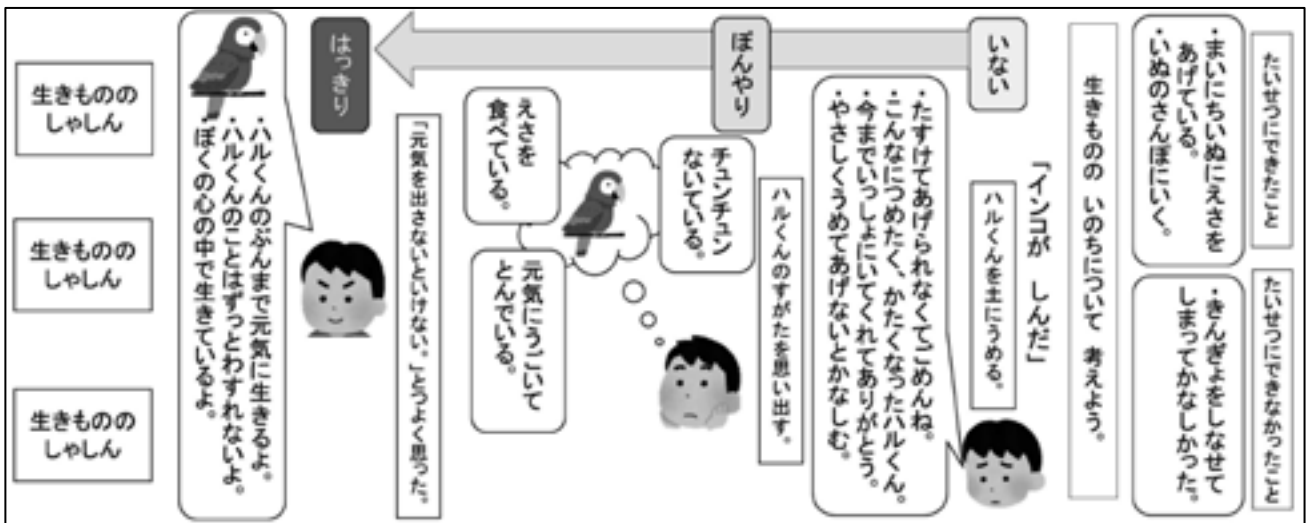
児童の学習活動・予想される発言と教師の発問	教師の支援（目的+方法）
<p>1 本時学習の方向性をつかむ。</p>  <p>生き物のいのちを大切にできたことはありますか。 大切にできなかったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎日忘れずにご飯をあげ、散歩に行っている。 飼っていた金魚を死なせてしまって悲しかった。 <p>【問い】 (例) 生きものの いのちを たいせつにする 自分を 見つけよう。 (例) 生きものの いのちについて 考えよう。</p> <p>2 いのちを大切にすることについて明らかにする。</p> <p>(1) いのちがなくなる悲しさを明らかにする。</p>  <p>ぼくはどのようにして、ハルクンを土の中に埋めているのでしょうか。埋めている、今、どんな気持ちですか。両手でそっと埋めているのは、どうしてですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 助けてあげられなくてごめんね。 こんなに冷たく、かたくなったハルクン。ごめんね。 今まで一緒にいてくれてありがとう。 優しく埋めてあげないとハルク君が悲しむ。 <p>(2) 生きていることを明らかにする。</p>  <p>ぼくは、ハルクンを埋めた後、ハルクンのどんな姿を思い出しているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ハルクンが元気に動いて飛んでいる姿。 ハルクンがえさを食べている姿。 ハルクンがチュンチュンなっている姿。 <p>(3) 自分の心の中で生きる命の大切さを明らかにする。</p>  <p>「元気を出さないといけない」とつよく思ったぼくは、ハルクんにどんなことを話しているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ぼくは、ハルクンの分まで元気に生きていくよ。 ぼくは、ハルクンのことはずっと忘れないよ。 ハルクンは、ぼくの心の中で生きているよ。 <p>【自分を振り返る視点】 (例) 生きものの いのちを 心の中で 大切にできる 自分。 (例) 心の中で 生きつづける いのち。忘れられない いのち。</p>	<p>○学習の方向性をもたせるために、大切にできた経験と大切にできなかった経験を想起できるアンケートを提示する。</p> <p>○飼っていたインコが死んで動かなくなったことに対する悲しさとインコを大切に思う気持ちを明らかにするために、模型のインコを土に埋める動作をもとに具体的な気持ちを尋ねる。</p> <p>○生きているインコの姿を具体的に想像しやすくするために、生きているインコの動画を提示する。</p> <p>○心の中で生きるいのちの大切さを明らかにするために、きっと見られているハルクンに対して話しかける想定場面を設定する。</p>
<p>3 忘れられない生き物の姿を思い出す。</p>  <p>学校や家で見かけた忘れられない生き物の姿や生き物のいのちを思い出してみましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 猫のタマがいつも私のベッドに潜ってきました。 餌をあげると金魚が口をパクパクしていました。 ウサギ小屋のウサギがフワフワして柔らかい。 	<p>○生きている証や心の中で生き続ける生きもののいのちを感じられるようにするために、学校で飼っている身近な生き物の写真を例示する。</p>

Point2

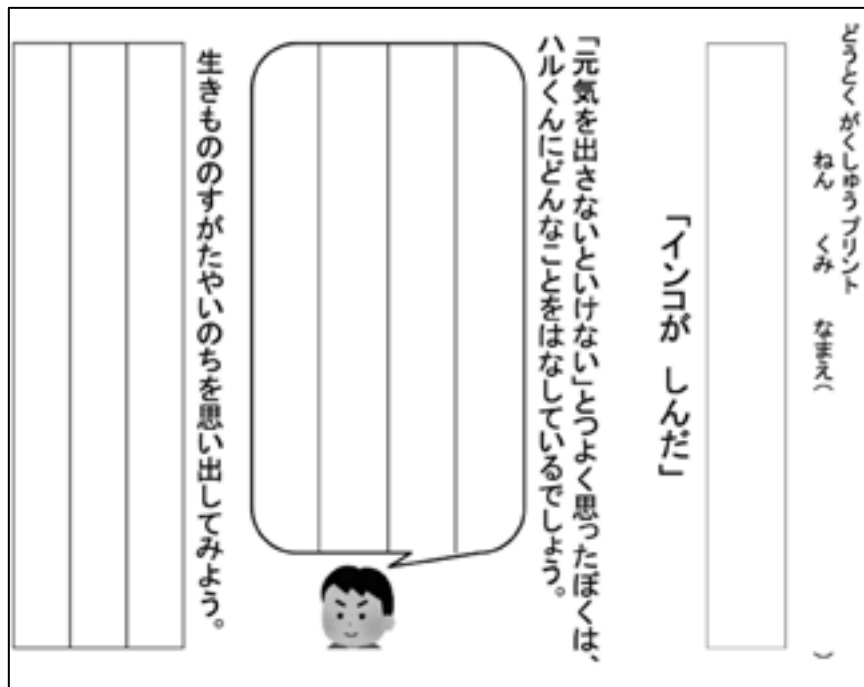
Point3

4 準備 インコの模型、インコの動画

5 板書



6 学習プリント



7 学習指導の Point

(1) 気付かせたいこと（ねらい）を明確にし、主人公に共感しながら気付かせる。

Point 1

気付かせたいことは、自分の心の中で生き続ける生き物の生命の大切さです。2（3）の想定場面でハルクんに話しかける主人公の気持ちを考えながら具体的に気付いていけるようにします。

(2) 具体的な動作をさせ、教師の問い返しで動作が表している気持ちを明らかにする。

Point 2

動作化させることで、具体的な気持ちが動作に表れ、強い共感をもたせることができます。ハルクンを埋める動作に対して、「今、どんなことを考えているの。」「なぜ、両手でそっと置いたの。」「なぜ、手を合わせているの。」といった問い返しを大切にします。

(3) 身の回りの生き物の生きている姿や生き物のいのちを具体的に捉える支援をする

Point 3

生きている生き物の姿をイメージしたり、忘れられない生き物のいのちを具体化したりするために、児童と関わりのある学校で飼っている生き物などの写真を提示します。

インコが しんだ

「ピーピー、チュンチュン。」
とりが ないている。きれいな いえだ。なま
えは、「ハル」。ぼくの いえの インコ。

いつも、かぞくみんな、「かわいい、かわ
いい」と 言っている。ハルくんは、とくべつ
な とり。はねの いろが ざしよくもある。ぼ
くが 三歳の のときから かつている。ハルく
んは、ちよつと 年よりだ。

その日、ハルくんが ちよつと おかしかつ
た。いつもは とまり木に いる ハルくんが、
下におりている。よく 見ると、かおやは ね
やおながが ふくらんでいる。どうしたんだ
らう。ぼくは、何も することが できなかつた。
ぼくは、すうく つらかつた。お父さんと お
母さんも、

「どうする ことも できんね……。」
と 言った。

つぎの 朝、ぼくが 目を あけると、ハルく
んは うごかなかつた。なかなかつた。ぼくは、
そんな ハルくんを見たくなかつた。

お父さんと お母さんは、
「かわいそうにね。なんにも できなくて うめ
んね。」
と言った。

ハルくんを さくらの 木の下に うめた。ハ
ルくんは すごく つめたかった。そして、少
しかたかった。

ぼくは、ハルくんといっしょに すぎした
まいにちを 思い出していた。ハルくんの い
ろいろな すがたが 今でも わすれられない。

今、ハルくんは いない。ぼくは ちよつと
さびしい。でも、きつと、ハルくんは、ぼく
のことを 空から 見ていると思う。だから
「ハルくんの ふんまで、元氣を 出さないと
いけない。」と つよく 思った。

